



# 東村山 生活者ネットワーク

政治は生活を良くする道具  
日々の暮らしからの声と市政をつなぐ



白石えつ子 2期目にチャレンジ 大塚恵美子は桑原りさへバトンタッチ

## ▶ 2人の擁立を決定 ◀



市議会議員  
大塚恵美子



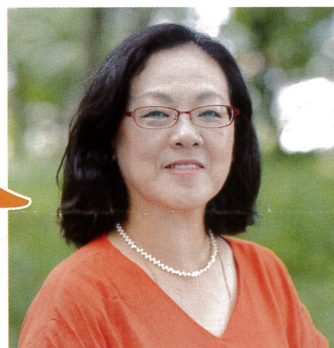
市議会議員  
白石えつ子

来春実施予定の東村山市議会議員選挙に向けて、東村山・生活者ネットワークは、予定候補者として白石えつ子、桑原りさの擁立を決定しました。生活者ネットワークは議員を「職業化しない。交代する事で特権化させない。最長3期12年でローテーションする。」という独自のルールに沿って活動しています。その約束通り、大塚恵美子から桑原りさにバトンを渡し、市民の政治参画の輪を拡げていきます。大塚恵美子はこれまで培った経験を、地域の新たな機能づくりを活かして行きます。

毎日の暮らしはまさに政治そのもの。日々の生活の課題は、自分たちが主体者になって解決!!あなたも私も当事者です!!さあ、一緒に取組んでいきましょう。



誰も排除されない、人間らしく生きていけるまちづくりを進めます。



現職 市議会議員  
白石えつ子

障がいも、貧困も、虐待も、特別なところで起こっているのではなく、身近にあります。そして、この現象は、個人の責任ではなく、社会問題と捉えています。

子どもは、小さな時期から一緒に遊び、学び合うことで、お互いの多様性に気づくことができます。

障がいを「自己責任とする医学モデル」から、「社会の障壁と一緒に解決する社会モデル」に転換していくことが必要です。

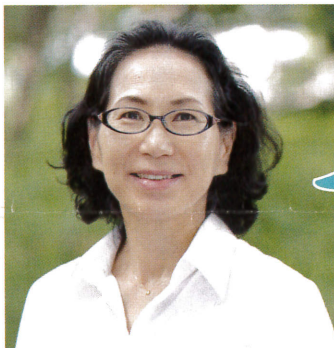
どんなに障がいが重い状態にあっても、必ず意思や意向が尊重されるよう働きかけていきます。

### 白石えつ子(しらいしえつこ)プロフィール

- 1959年/栃木県足利市生まれ 埼玉県立浦和商业高校卒業
- 1978年~1983年/小西写真工業株式会社(現コニカミノルタ株式会社)勤務
- 1995年/阪神淡路大震災を経験
- 1997年/東村山市へ転居
- 1998年~2006年/まりあ幼稚園母の会クラス委員 学童保育連絡協議会事務局次長 市立秋津小学校PTA学級委員 市立第二中学校PTA副会長・学校評議員
- 2002年~/東村山子どもまつり事務局
- 2008年~/HUG子どもパートナーズ立ち上げ
- 2010年~14年/生活クラブ生協理事 社会福祉法人いずみ「スマイル」勤務
- 2015年5月/東村山市議会議員(都市整備委員会所属)
- 久米川町在住
- 家族 夫・息子
- 趣味 映画鑑賞・美術館めぐり・書道・コーラス・スポーツ観戦

## 桑原りさ

東村山・生活者ネットワーク事務局長



引き継ぎます!  
子どももおとなも  
ひとりにしない

東村山・生活者ネットワークの事務局を担い10年。さまざまな制度が充実してきているように見えても、年齢に関わらずSOSを出せずに救済されない人が多くいます。

国は更なる経済成長を求めています、急速に人口が減り、手取り収入も減る中、生活は苦しくなっています。若者や子ども世代が、将来に希望を持ち、幸せと感じられる社会になるには、政治を身近な生活の道具として使いこなすことが必要です。

どんな人もその人らしく暮らせるまち、機会が与えられるまちに変わるときです。ここに住んで良かった、ずっと住み続けたいと思える改革を進めてまいります。

### 桑原りさ(くわはらりさ)プロフィール

- 1962年/東京都世田谷区生まれ 東京デザイナー学院卒業 デザイン会社勤務
- 1986年~1993年/ニュージランド、オーストラリア滞在
- 1995年/東村山市に転居
- 1999年/市内初の「子育てに役立つサークル紹介」「幼稚園等紹介」冊子発行
- 2000年/生活クラブ生協加入
- 2001年/東村山冒険遊び場立ち上げ 東村山市公民館企画員(子育て・読書活動講座を企画)
- 2003年~2007年/東村山市議会議員
- 2008年~2010年/市立八坂小学校PTA会長
- 2013年~2018年/東村山市男女共同参画推進審議会委員
- 2017年/市立第七中学校PTA副会長
- 本町在住
- 家族 夫・娘(大学生)・息子(大学生、高校生)・ねこ
- 趣味 球児の応援・自転車こぎ・さんぽ・イラストを描く・つばめ観察

市議会議員

# 白石えつ子

詳細はこちら  
http://shiraishi.seikatsusha.me/  
Facebook: 白石えつ子



**6/3 私たち家族が困っていること**

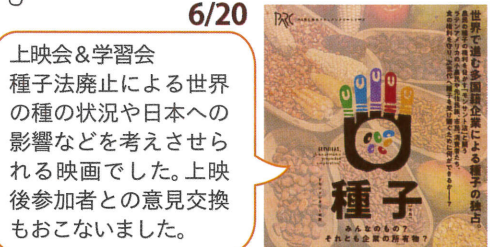
どんなに障害が重くても、子どもが子どもらしく遊べる居場所、必要な支援が充実した居場所が欲しいです...

- 重症児はこわいといわれることがある
- 必要な支援が整わない
- 行政はやりたがらない

重度心身障害児や医療的ケア児の放課後等デイサービスなどの居場所づくりの集まりに参加しました。



はじめての一步カレンダー

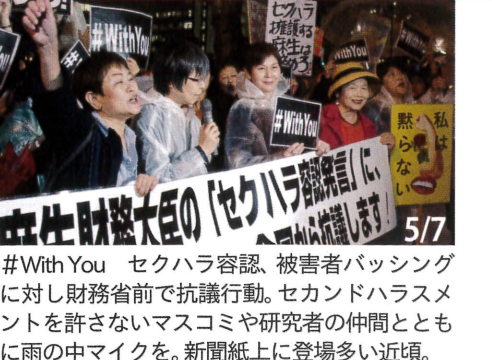


# 6月 東村山市議会報告 生活者ネットワーク 一般質問より

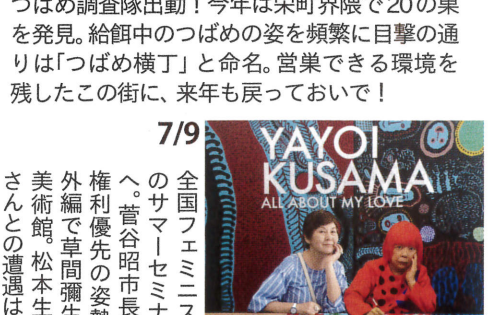
市議会議員

# 大塚恵美子

詳細はこちら  
http://otsuka.seikatsusha.me/  
twitter: @otsukaemiko  
Facebook: emiko.otsuka.186



まちカフェ日記



**保育園は誰のためのものか**

小学校に待機児はいないのに、なぜ保育園に入れないのか。なぜ親は保活に走らなければならないのか。東村山市内の保育園待機児は64人から5人へと大幅に減少した。しかし、一次選考で希望する園に入らなかった子どもは29%との答弁であり、地域型保育・小規模保育所の増設と各園の弾力的運用でしているのが実態といえる。待機児対策の切り札として増設される19人までの小規模保育所は規制緩和の「たまたま」であり、国の補助金が手厚く利益率が高い。園庭はなく0・1・2歳児が育つ環境として適切といえるかどうか、保育

**女性活躍が輝いて活躍が女性にできるのか**

5月に「政治分野における男女共同参画推進法」が成立した。超党派議員連による法制化で、男女の候補者数をできる限り均等となることをめざし、クオータ制(割当)、パリテ(同数)と同じ理念をもつ。どのように実社会に波及し、影響をもたらすかを尋ねた。

**秋津町 沢の堀のこれから**

沢の堀は、暗きよにして学校の通学路や散歩などに利用していました。その一部の玉石が崩落している箇所が見つかり、安全が確保されないとの判断で、全面通行止めになっていました。今回、全長約1300メートルに渡る護岸工事、市民向け説明会が、秋津小学校体育館で行われました。

**秋津町 沢の堀のこれから**

既設護岸をコンクリートで補強し改修。  
水路改修後、新設蓋を設置し、歩道として機能回復。  
歩行者・自転車は通行可。

☆改修方針の内容

**☆改修方針の内容**

- ① 水路用地内の樹木・家庭菜園等が施工上支障になるため、撤去が必要。
- ② 水路に出している排水菅が、支障になるため、排水菅調査を行う予定。
- ③ コンクリート打設工事使用するホースが届かない区間が発生するため、作業基地スペースの確保が必要。

☆工事スケジュール

平成31年度～平成35年度4年間、工事箇所は、各工区ごとに行う。

設計・調査業者は、「株式会社日水コン」が行う。

市民からの質問には、「工事完了箇所から通行可能になる」「道路から沢の堀にスロープでも降りられるように設計していく」「設置される蓋の耐用年数は、50年である」など、説明以外のことも色々確認できました。今後も計画が確定した場合は、市民向けの説明会を開催するとの説明もありました。市民の憩いの場となるよう今後も注視していきましょう。

これでもいいのか!

# 「原発ゼロ・自然エネルギーへの転換を求める陳情」否決

6月議会に出された「原発ゼロ・自然エネルギーへの転換を求める陳情」核兵器禁止条約の日本政府の署名と批准を求める意見書の2件は本会議で反対多数(12対11)で否決となった。生活文教委員会会で審議した6月12日は奇しくも、北朝鮮の非核化をめぐる米朝首脳会談が行われた日と重なった。

第5次エネルギー基本計画に原発ゼロを明示し、自然エネルギーを主力電源と位置づけ、目標値とする「2030年に22%、24%を2倍以上に引き上げる」となど、日本のエネルギー政策を転換して、という主旨の陳情だ。

福島原発震災から7年、未だに「原子力緊急事態宣言」は発令中だ。避難指示解除がされた地域でも、飯館村7%など帰還は1割に満たない。国内の原発(もんじゅ、常陽含め)57基中、稼働は4基に過ぎず、海外から調達する石油、石炭など化石燃料に25兆円も支払い、石炭火力発電所はこれからも増設が予定され、石炭火力の比率は26%としている。これではCO2削減2℃気温を下げるパリ協定の約束は叶いそうにない。

2016年以降、電力小売り自由化を受け、2020年には送配電も分離となる。太陽光、風力などの自然エネルギー発電量は増加し、潜在力はドイツの9倍とされる。エネルギー基本計画では、原発をへ

スロート電源とすることに変わりはなく20%22%を明記する。このことは原発を30基ほど稼働させる計算となる。現在、19基の廃炉が決まっているが、福島第一原発の廃炉だけでも8兆円が必要とされ、50年以上かかる溶けたデブリの取出しや汚染水対策費は入っていない。放射能廃棄物の恒久処理や管理は未定のままであり、採算すらとれないのが原発というしろものだ。

地震や災害、放射能漏れに対する避難計画はとも不十分で現実的ではない。

世界の主要国は自然エネルギーへのシフトが進み、ドイツの再エネ比率は35%を超えている。リスクの大きいエネルギーに依存することなく、電源構成を明らかにした小規模分散の持続可能エネルギーに、パワーシフトすることがエネルギー自立と民主化につながる。

2017年に採択された「核兵器禁止条約」への署名・批准についても、唯一の被爆国である日本が核兵器廃絶と軍縮を主張して当然であるはずだが、核保有国が批准しないことをあげて陳情に反対する市議会主要会派、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)のノーベル平和賞にも其感がないということか。

原爆投下73年。被爆国の使命も現実も見据えず、議員間の討議が成熟しない議会に、どのような未来が描けるのか疑問だ。  
(大塚恵美子)

## 第11回 平和の集い 豊田直巳スライドトーク 「奪われた場所 イラク、フクシマ」



開戦から15年のイラク、原発事故から8年を迎えるフクシマ、多くの人たちの記憶から喪われたもの、帰れない場所。フォトジャーナリストの豊田直巳さんが尊厳の記憶と記録を語ります。

豊田直巳さん  
フォトジャーナリスト  
東村山市在住。日本ビジュアルジャーナリスト協会(JVJA)会員。  
映画「遺言 原発さえなければ」「奪われた村」監督。

日時:2019年1月27日(日) 午後2時~5時  
場所:東村山サンパルネ「コンベンションホール」  
アクセス/西武新宿線・国分寺線 東村山駅西口直結  
資料代:500円(子ども・学生無料)

——予約・お問い合わせ——  
TEL・FAX 042-392-7677  
東村山・生活者ネットワーク事務局

## 合成洗剤から石けん利用へ 市長と市民の懇談会 7月17日

公共施設において「体と環境に影響の恐れのある合成洗剤の使用をやめて石けんに切り替えて欲しい」ということを訴えるため、シャボン玉月間の7月に生活クラブ、パルシステムなど地域の運動グループ7人で市長と懇談の機会を持ちました。

子育て中のママから、日頃「香りで具合が悪くなっている」ことや、「石けんを使うことで主婦湿疹が改善された」ことなどが伝えられると、市長は驚いている様子でした。水害時の越流の問題や、市庁舎内で使用されている水石けんの殺菌剤の危険性の話とともに、日野市で行っている石けん一括購入の提案もありました。

国連が掲げている持続可能な開発目標のSDGs(エスディーゼーズ)にも「安全な水、

海の豊かさ」などのキーワードがあり、この世界的な目標達成のために石けん使用を、との話は、公共施設での石けん使用を市がすすめていくエビデンスになるのではないかと思います。

命の源である水。日々の暮らしの中で「使う水」と「流す水」どちらにも意識を向けていきたいですね。(鈴木寿子)



「石けん」を使っている手は、こんなにきれい

編集後記 マイクロプラスチックによる、海洋汚染が注目視されています。台所で使うアクリルたわしも例外なく、その繊維が影響していると聞き、どうしたらいいものか困っていました。が、いい物を見つけた!!「へむへむ」というひのきの皮を編んだ束子で、枝元なほみさんもおすすめのもの。これなら、森や海を守ることになり、石けんがなくてもOK。うれしい発見だった。(順)